



桐生歴史文化資料館

本町一・二丁目、桐生新町重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）の入り口に位置し、重伝建地区を核とする歴史まちづくりの拠点にもなっている桐生歴史文化資料館。歴史的にも価値の高い「生人形 白瀧姫」をはじめ、明治期の桐生織物に関連する貴重な資料を多数展示している。

白瀧姫は明治時代中期、日本織物会社の佐羽喜六が「織姫孺子（じゅす）」の宣伝用に、日本を代表する生人形師・安本亀八に作らせたもので、同社が創建した織姫神社（織姫町）から発見されたもの。一般に長期公開されるのは制作以来 120 年の歴史の中でも今回が初めてとなる。

資料館は元々オフィスとして使用されていた建物の一部を昨年 9 月、本町二丁目商盛会（増子相一会長）が展示会場へ改装を行い、3 ヶ月限定で白瀧姫の企画展を開催した。企画展終了後、展示に協力した歴史文化資料館運営委員会（茂木新司会長）が施設の運営を引き継ぎ、今年 4 月 29 日現在の資料館として新たなスタートをきった。重伝建選定以来、年々増加する来桐者に桐生の歴史と文化を理解してもらうインフォメーションセンターとしての役割も果たしている。

館内は白瀧姫の他に、桐生の織物産業の隆盛を伝える資料や当時の町並みを見て取れる資料などが展示されている。また、最近では織姫神社落成時の棟簀や扁額など貴重な展示品が追加され、新たな見どころとなっている。



開館以来約半年で 3,500 人が来場、白瀧姫を一目見ようと熊本や青森から足を運ぶ人もいるという。観光の拠点として定着する一方で、生涯学習の場として様々な企画展も開催し、桐生の歴史・文化の多様性を広く伝えている。現在は「パチンコの進化と桐生の 3 社」（11 月 8 日まで）を開催中で、11 月 11 日からは「矢野の記念写真展」を予定している。桐生の歴史を掘り下げる貴重な展示内容、重伝建に隣接するロケーションと桐生の観光に欠くことができないスポットとなっている。

●場所／桐生市本町二丁目 8-27（矢野新館）

白瀧姫が伝える桐生の隆盛
歴史まちづくりの拠点